

# 社内浸透のキーワードは、「楽しさ」と「期待感」 パラスポーツをきっかけに、だれでも、 だれとでも楽しめる社会へ

長年にわたるスポーツ大会運営の実績を持つ、イベント企画・運営企業のセレスポ。サステナビリティの観点から、パラスポーツのさらなる盛り上げを社内に浸透させる工夫を続けた結果、本業にも好循環が生まれている。目指すのは、パラスポーツ普及の先にある共生社会の実現である。



株式会社セレスポ



体験会・講習会



ボランティア



協賛



アスリート雇用

## 企業情報

### 株式会社セレスポ

【担当部署】人事総務部 コーポレートデザイン室

【担当人数】5名

【住所】東京都豊島区北大塚1-21-5

【電話】03-5974-1111(代表)

【URL】<http://www.cerespo.co.jp/>



## ボランティア活動が、本業へと つながった

まずは、社員たちにパラアスリートを身近に感じてもらうと、同社に勤務している元パラアスリート社員とともに、全国の支店や部署を訪問した。また、同社の物流倉庫に仮設の会場を設置。社員や取引先を招き、車いす利用者の目線でイベントを体験してもらった。また、競技用車いすを使ったパラスポーツ体験会を実施。参加者を募り、社内でポッチャの体験を行ったり、社外のイベントに参加したりした。



パラスポーツをビジュアル化

「しかし、気がつけば、似たような顔ぶれになっていたんです。でも、もっと多くの人、特に無関心層にも参加してほしいと思いました。」(越川室長)

そこで、切り口を変えて、「パラスポーツxビジュアルコミュニケーション」というテーマで公開セミナーを行うことにした。ビジュアル面を前面に押し出した内容にしたところ、期待通り、デザイナーやクリエイターなど、それまでとは異なる層が参加した。

前向きにパラスポーツの盛り上げに関わる社員が増えていったことで、社外にも「セレスポとなら何かできるかも」という評判が広がっていった。

## パラスポーツの盛り上げの先に見ているもの

「私たちが目指しているのは、パラスポーツをきっかけに、障がいのある方や高齢者、子ども、妊婦さん、海外の方などとも「何も気にせず一緒に過ごせる」方法を見つけ

ることです。段差やトイレ、アレルギーなど配慮が必要なことはたくさんありますが、ちょっと工夫すれば、だれもが、だれとでも一緒に楽しめるはず。パラスポーツの応援を通じて、一人でも多くの方にそういう発想を持っていただけたらうれしいですね。」(越川室長)

だからこそ、TEAM BEYONDには、「まずは続けること。そしてスポーツを超えた存在になってほしい。」とリクエストする。

「障がいのある方がイベントに参加するためには、サポートが必要なケースも多いと思います。とはいえ、ご家族や介助者もいつでも何でもできるわけではないと思うので、同時に、ご家族や介助者に対するサポートや工夫も考えなければいけないと思います。」(越川室長)

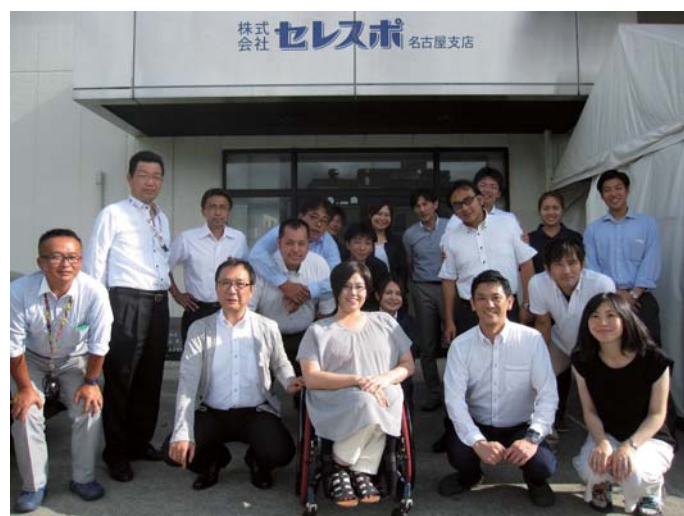


BEYONDというからには、2020年もスポーツという枠も超え、さらには、障がいのある当事者だけでなく、その周囲の人たちにも思いを致すことが必要と、越川室長は訴える。そしてすでに、同社はそうした枠をはるかに超えたビジョンを描き、具体化へ向けて動き出している。

## コロナ禍における取組・今後の方向性

全国各地でパラスポーツ関連の取り組みはかなり増えてきた。これらの取り組みが継続されることが目標の一つ。さまざまなテーマと掛け合わせながら楽しさや学びの選択肢としていくことで、継続開催につなげていく。それが結果として、スポーツや障害を超えた取り組みとなり、共生社会の実現につながると考える。

## パラスポーツ盛り上げを若手社員 育成の機会に



名古屋支店の皆さん

同社は、長年イベント会場のバリアフリー化に取り組んできたが、社長の経営指針として、パラスポーツの盛り上げに取り組むことにした。その手始めとして、ある陸上選手権大会でパラ陸上ブースを出展した。



越川室長

「社内外にパラ陸上を広めるため、『レーサー』という陸上競技用車いすや競技用義足の試乗・装着体験を実施し、陸上ファンにもパラアスリートにも好評でメディアにも注目してもらい、大きな手ごたえを得たと感じていました。ところが、社内では、『なぜ健常者の大会でパラ陸上のブースを出すのか』といった懐疑的な反応が返ってきたんです。仕事でパラスポーツに関わる機会が増えていたとはいえ、まだ本当の意味ではパラスポーツに取り組む意義が浸透していないのだと痛感させられました。」(人事総務部副部長兼コーポレートデザイン室長越川延明氏)